

協同の系譜

第1部

川崎 平右衛門

行基という先駆者

たが、書くほどに武蔵野の歴史や木曾三川での宝暦治水事件などにどうしても触れておきたいところと、連載回数を10回に増やしていただいた。また、連載半ばを過ぎたところで読者から、①川崎平右衛門がもし現代に生きているとすれば何を考え何を語るか②協同の系譜や働く者の歴史にも触れてほしい——とのありがたい注文を頂いた。

①については次回の最終回で触れるとして、②については川崎特記しておきたい存在

「知識結」形成し事業
行基は天智天皇7(668)
年に生まれ、天平21(749)
年に81歳で亡くなるまでの間、
困窮者のための布施屋や道場、
寺院、さらにはため池・溝・堀
などによるかんがいや墾田開
発、架橋の貧民救済・治水・土
木などの社会事業の活動を繰
広げた。また、東大寺の大仏像
造営のための勧進により、大僧
正の位を与えられている。

行基は「知識結」という僧俗
混合の宗教集団を形成して、活

が奈良時代の高僧・行基である。京都大学名誉教授の池上櫻氏は二宮尊徳について語る際によく行基にも触れておられる。

知識結形成し事業

行基は天智天皇7(668)年に生まれ、天平21(749)年に81歳で亡くなるまでの間、困窮者のための布施屋や道場、寺院、さらにはため池・溝・堀などによるかんがいや墾田開発、架橋の貧民救済・治水・土木などの社会事業の活動を繰り広げた。また、東大寺の大仏像造営のための勧進により、大僧正の位を与えられている。

行基は「知識結」という僧俗混合の宗教集団を形成して、活

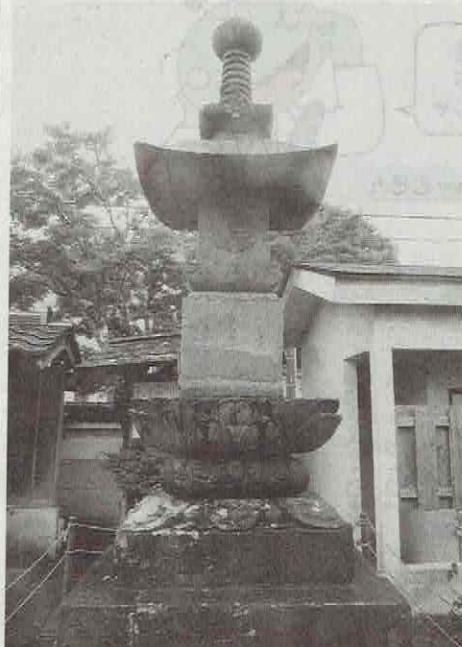
前回、協同が成立する前提として、協同を構成する一人一人の自立と自治が必要条件となり、リーダーシップが協同を促し動かしていく、との私見を述

て、特別の偉人の存在なくして
も、協同活動が容易になつてしま
たのが、歴史の歩みであり進歩
といえるのではないか。

つて「知識結」を可能にしたうに感じる。

系統的に展開するだけの知見もスベースもない。ただ一言だけ、治水や土木の歴史を調べる中

治水支えた専門集団



妙法寺境内に建つ川崎平右衛門謝恩塔
(東京都国分寺市で)

村によって、おのおの謝恩塔が建立されている。当地を離れてちょうど半世紀。開墾者の孫の代に謝恩塔が建立されたというのは、平右衛門の働きが豊かな実りをもたらしたことを端的に物語っている。(次回は80日付)